

一般質問を通じた議員力の向上について

2020/06/24

議会改革推進会議 正副委員長

1 経緯

令和2年4月に正副議長より議会改革正副委員長に対して、「議会のレベルアップのためには議員個々のレベルアップ、つまり、『議員力の向上』が重要である。そのために、一般質問の向上、議員の意識改革を考えられたい」という趣旨の依頼があった。また、その説明のなかでは、平成29年3月に議会改革推進会議が編集した『たかが一般質問、されど一般質問』が生かされているか』といったことにも触れられた。

2 課題整理

(1)『たかが一般質問、されど一般質問』が生かされているか

冊子から引用すると、「一般質問は、議員の力量が計られる場」であり、「議員各人の質問力＝政策力は議会力の根幹」であることから、一般質問の重要度は高く、議員個々による一般質問力のパワーアップである。

(2)「(一般質問が)このままでよいのか」という動機付けから、一般質問を活かしていくところへどうつなげられるか。

冊子から引用すると、「良い一般質問が活かされているとは限らない。議員ひとりの提起であって議会の提起でないからである」とあることから、良い一般質問が活かされる仕組みづくりが必要。

<では良い質問が活かされるか>

**良い一般質問が活かされるとは限らない
議員ひとりの提起であって議会の提起で
ないからである**

良い一般質問が活かされる仕組みづくりが必要ではないか。



3 取り組みの方向性(提案)

(1)『たかが一般質問、されど一般質問』の有効活用

冊子『たかが一般質問、されど一般質問』自体の検証ではなく、冊子の付録として「自己評価シート」があることから、まずは、議員個々がそれぞれの一般質問を振り返り、自己評価・検証されるように促していく。

また、その振り返りのなかで、「一般質問のパワーアップ」という視点で、個人の解決できない点や全体で議論することが有効と考えられる点について、今後の委員会で協議・検討してみる。

(2) “良い一般質問”が活かされる仕組みづくり

良い一般質問の課題とされる「まちの争点・現状分析・論点のまとめ・解決のための方策・論ずる力」などを、議員間で共有してみる。

他の議員の一般質問は本会議場で聴いているものの、自身の一般質問もあたりすることから、十分に受け止めきれず、良い一般質問だと思っても、次へつながっていかない感がある。

議員の質問力を向上する観点で、自身が一般質問として取り上げた場合などを想定して、意見交換してみるのはいかがか。特に、「議会だより」に各議員の一般質問の注目点があることから、それを材料としてみるのはいかがか。

2. 市民への争点提起として活用し 市民の関心を得る

①市民の声を一般質問の争点にする例

議会報告会や意見交換会などで市民から出た話題から、自治体の〈政策・制度〉上の問題点として捉え一般質問に結びつける。

これは、関係する対象者も存在するために市民の関心と呼ぶことに繋がり、議会としての争点にもなりうる。方法として前述の議会報告会などの他に、**議会が「市政相談」を受け付ける仕組みを持つ**ことなどが考えられる。

②一般質問の争点を市民にも判りやすく伝える、共有する例

市民が一般質問について知る方法は、ケーブルテレビや議会だよりなどがあるが、ただ、伝えるための工夫がどうであるかについては改善の余地があると思われる。

通告書の記載内容などはこれまでも述べてきたが、通告内容は市民がホームページなどでも見ることが出来るため、**質問事項が「〇〇について」ではなく、質問要旨には、対象とする内容と問題意識が市民にも読み取れるようにすれば、**質問に対する関心も高まり、市民との課題共有にも繋がる。

さらに、議会だよりなどにも一般質問で課題提起した事項の、追跡ができるなどの生きた情報提供も考えられる。

